

研究発表会 謝辞

令和5年1月27日

西東京市立栄小学校長 中村千佳子

第49回 全国学級経営研究大会 東京大会、第55回 東京都小学校学級経営研究大会を、皆様のお力添えをいただき無事滞りなく終えることができました。遠方からおいでくださいました皆様と、参会にご配慮いただきました市内校長先生をはじめ市内・都内・各県市の先生方に心より感謝申し上げます。

研究大会を閉じるにあたり、三つの御礼を申し上げます。

まず、講師の先生にお礼申し上げます。先ほどご講演を賜りました横浜国立大学 教職大学院 准教授の藤原 寿幸（としゆき）先生は、本校の学級力向上プロジェクトの取組にあたり、何度も本校に足を運んで研究の方向性を導いてくださいました。早稲田大学 教職大学院 教授の田中 博之 先生にもこれまで多くのご示唆をいただいてまいりました。

また、全体会においてご祝辞を頂戴いたしました文部科学省初等中等教育局 主任視学官 宮崎活志（かつし）様を始め、東京都教職員研修センター企画部長 滝沢 毅（たけし）様に深く感謝申し上げます。

さらに、指導講評をいただきました西東京市教育委員会 教育指導課長 山縣 弘典（ひろのり）様、分科会において指導助言をいただきました西東京市教育委員会 統括指導主事の三田 大樹（ひろき）様、並びに明星大学 教育学部教育学科 特任教授の杉山 直道 様、本当にありがとうございました。

二つ目に、研究大会を影で支えてくださいました保護者の皆様にも感謝しております。本研究大会を迎えるに当たり、多くの保護者が事前の準備や受付等でご協力くださいました。本校の保護者は、「自ら判断し行動できる児童の育成」という本校の方針を学校と共有し、様々な場面で協働してくださっています。

三つ目は、本校の教職員と児童について話をさせてください。本校はこの3年間、学級経営と国語科教育の二本の研究に取り組んできました。学習指導要領に求められる高度な学びを実現するには、子供たちが協働して学ぶことのできる学級経営が必要です。さらにコロナ禍により、学校は子供たちの居場所であることが再認識されました。そこで「良い学級が良い授業を生み、良い授業が良い学級を創る」という理念に立ち、研究を進めてまいりました。

国語科を軸にした授業力向上の面では、元玉川大学客員教授の興水かおり先生と、全国国語授業研究会 理事の林真弓先生にたくさんの貴重なご指導をいただいてまいりました。

今、学校は多くの教育課題に対応しています。その多忙な中にあって、本校の教職員は前向きに努力と挑戦を続けてきました。「共通理解」というのはどうしても個々の解釈や意識に差が出てしまいます。そこで「共通行動・共通実践」として「行動ベース」を揃えるようにしました。「笑顔と活力」をモットーにしている本校は、職員室にもいつも笑いがあり、明るくメリハリのある教職員集団です。率先垂範を心がけ、常に丁寧な指導を行う教員と、労を厭わず下支えする職員との力を結集して、子供たちを育てまいりました。

これらの教職員の頑張りは、子供たちの成長に現れました。委員会活動では高学年が主体性を発揮して仕事をしています。休み時間の終わりには、入室の遅い子に上級生が優しく声をかけながら一緒に入室する姿が見られます。6年生は、みんなの手本となる行動を意識しており、子供たちが学校づくりに貢献しているといっても過言ではないほどです。全国学力調査の結果は年々向上し、不登校児童は年々減少しました。こうした成果や子供たちの成長は、自分たちの実践に喜びをもたらしました。みんなでベクトルを揃え日々の業務を地道に行うことが、ある意味では働き方改革に繋がっていることを実感しています。

最後になりましたが、多くのご支援をいただきこのような学びの機会をいただきましたことに心から感謝申し上げます。まだまだ研究は途上で未熟な点多かったと思いますが、「未来を拓き生きぬく力」とは何かを問い続け、今後も研究と実践を進めていくことをお誓い申し上げ、謝辞とさせていただきます。

本日は大変にありがとうございました。